

2018年度(2019年3月期) 第1四半期決算説明会

2018年7月25日

株式会社アドバンテスト

アジェンダ

■ 2018年度第1四半期決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

■ 2018年度 事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

ADVANTEST.

四半期業績推移

	FY17				FY18	前期比		前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増加額	増加率	増加額	増加率
受注高	494	562	568	854	706	▲148	▲17.3%	212	43.0%
売上高	407	477	509	679	709	30	4.4%	302	74.3%
売上総利益	206	249	232	379	382	4	1.0%	176	85.6%
売上総利益率	50.6%	52.1%	45.8%	55.7%	53.9%	▲1.8pts		3.3pts	
営業利益	22	52	32	139	158	20	14.3%	136	7.1倍
営業利益率	5.5%	10.9%	6.4%	20.4%	22.3%	1.9pts		16.8pts	
税引前四半期利益	16	48	34	145	165	20	14.0%	150	10.6倍
四半期利益	10	39	26	106	139	33	30.7%	129	14.0倍
四半期利益率	2.4%	8.2%	5.0%	15.6%	19.6%	4.0pts		17.2pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整					▲30				
受注残	509	594	653	828	795	▲33	▲4.0%	286	56.2%
為替レート	1米ドル	112円	111円	112円	111円	108円	3円 円高	4円 円高	
	1ユーロ	121円	128円	132円	134円	131円	3円 円高	10円 円安	

ADVANTEST.

2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

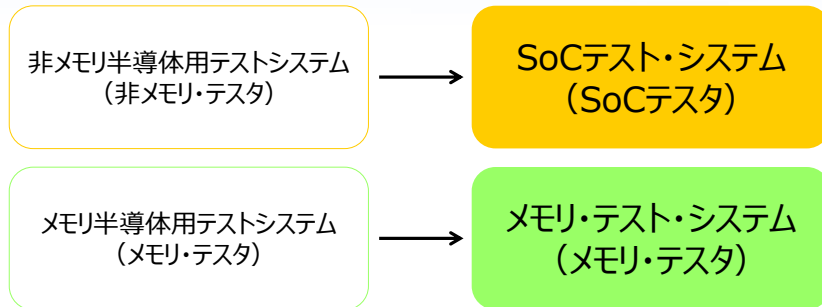
3

○ 2018年度第1四半期の業績概要

- 当第1四半期の半導体市場は幅広い領域で生産拡大が続き、ハイエンド品を中心に性能向上の動きも力強く進行了。これを背景に、半導体メーカーの積極的なテスト投資が継続され、良好な事業環境となりました。
- 当社の強みは、顧客基盤です。当第1四半期も、広範な顧客から多くの受注をいただきました。
- 受注高は 706億円となりました。前期比で 148億円減少していますが、依然力強い水準です。700億円台は、前期を除けば、2005年度第3四半期以来となります。
- 売上高は 709億円となりました。5四半期連続の増収となりました。
- 売上総利益率は53.9%でした。前期比1.8ポイント下がりましたが、高いレベルが維持されました。
- また販管費を抑えたことで、営業利益は 158億円となりました。2四半期連続の営業利益率 20%台を達成しました。
- 税引前四半期利益は 165億円、四半期利益は 139億円となり、四半期利益率も約20%となりました。
- なお当社は、収益認識基準に関するIFRS第15号を、18年度から適用しました。
- その調整を期首に実施しています。
- 受注残への影響額は マイナス30億円です。その結果、第1四半期末の受注残は 795億円となりました。
- 為替実績は、米ドルが108円、ユーロが131円 です。

市場領域の呼称変更について

■ 18年度より、半導体テストの対象市場の呼称を変更



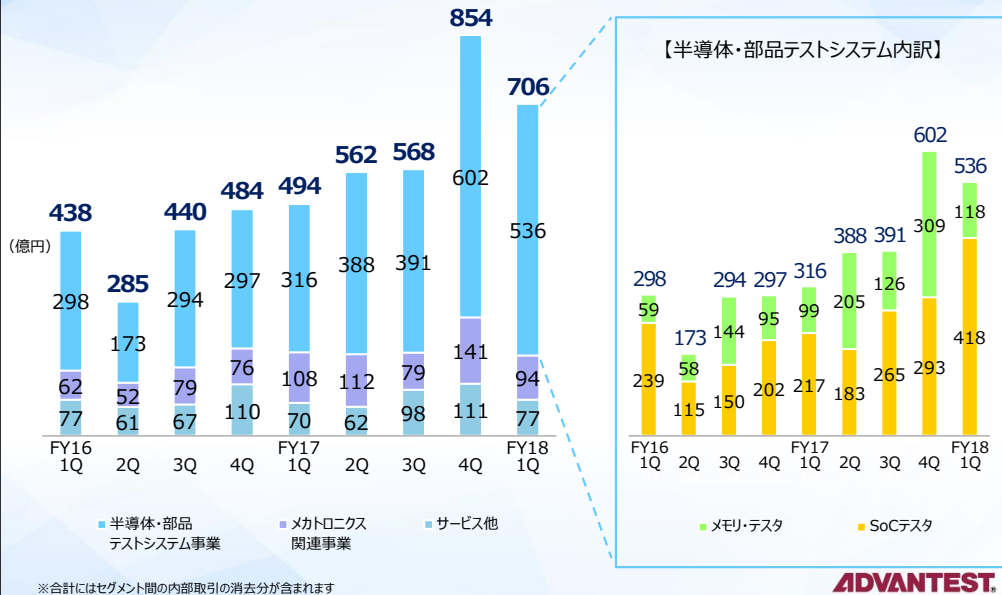
※それぞれが意味する対象領域の定義は変更ありません

ADVANTEST.

○ 市場領域の呼称の変更について

- これまでは、測定デバイスの品種に基づき、＜非メモリ＞＜メモリ＞の2つに市場領域を大別していました。
- 用語の普遍性を踏まえ、18年度から、＜SoC＞＜メモリ＞と呼称するよう、改めます。
- SoCテスト製品、メモリ・テスト製品それぞれの市場領域自体には変更ありません。
- SoCという区分は、狭義ではいろいろなIPを集積した「System on Chip」を指しますが、いままでの＜非メモリ＞を、＜SoC＞と読み替えてください。
- 当社のいう＜SoC＞は、もっと広義です。MPUやGPUなどのロジックIC、ベースバンド・プロセッサなどの通信用デバイス、MCU、アナログIC、センサ、光デバイス、ディスプレイ・ドライバなどが含まれます。
- メモリ・テストは、DRAMや、NANDなどの不揮発性メモリのテストに特化した製品です。

四半期受注高 事業セグメント別



2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

5

○ 2018年度第1四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比 11%減 536億円
 うちSoCテスト 418億円
 メモリ・テスト 118億円

・ SoCテストは過去最高の四半期受注高となりました。

・ 数字が伸びた背景には、半導体市場の質的・量的な変化があります。

・ 特にスマートフォンの基幹部品であるアプリケーション・プロセッサでは、微細化やAIチップ組み込みなどによる性能進化が進んでいます。これがテストの複雑化やテスト時間の時長につながり、テスト需要が伸びました。

・ ほか、車載向け、産機向け、民生向けなど、幅広い領域で顧客の投資が進んだことも、SoCテスト受注を押し上げました。

・ メモリ・テストは、前期に大型の前倒し受注があったため、反動減しています。実態ベースでの減速感はなく、DRAM向け・不揮発性メモリ向けとも、堅調な受注となりました。

○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 34%減 94億円

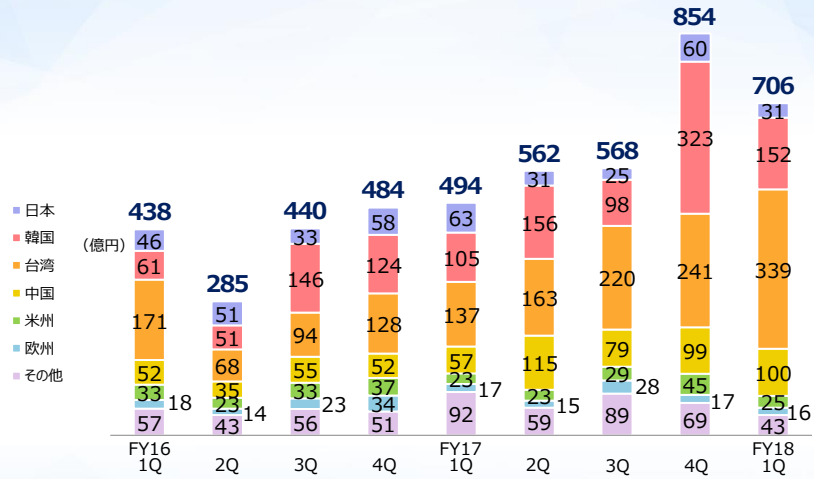
・ デバイス・インターフェース受注がメモリ・テストと連動減したほか、ナノテクノロジー製品の商談も低調でした。

○ サービス他

- ・ 前期比 31%減 77億円

・ 保守契約更新が前期末に多かったことで、その反動減がありました。

四半期受注高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2018/7/25

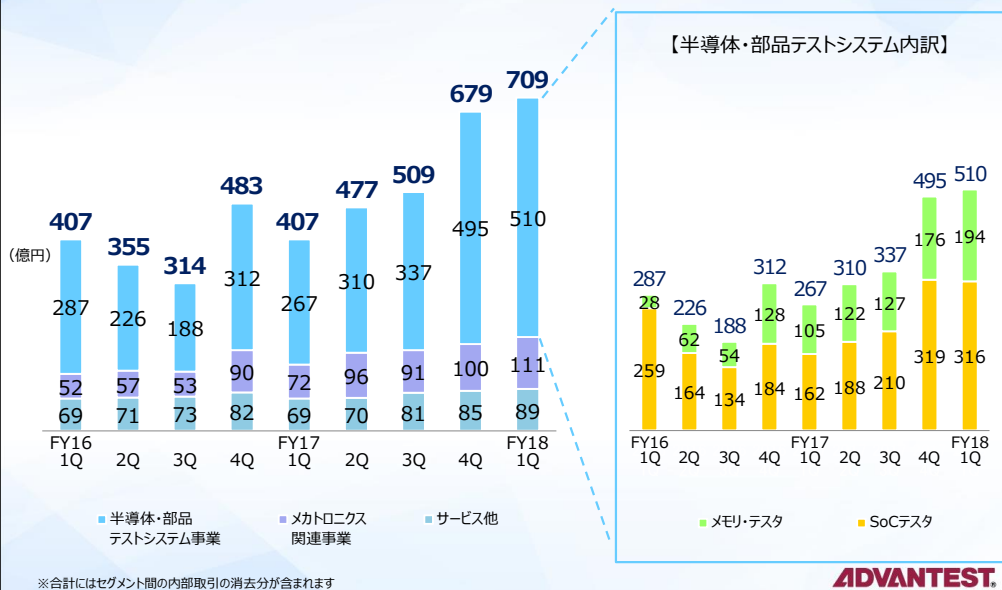
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

○ 2018年度第1四半期の地域別受注高

- 前期比で増減が大きかった地域
- 台湾 98億円増加 339億円
スマートフォンに使われる、アプリケーション・プロセッサのテスト需要が伸長しました。
- 韓国 171億円減少 152億円
前期に受けたメモリ・テストの前倒し受注の反動減がありました。

四半期売上高 事業セグメント別



2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

7

○ 2018年度第1四半期の事業別売上高

- ・ 例年、第1四半期は前期比減収となりますが、この第1四半期は前期比増収と、力強く推移しました。

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ 前期比 3%増 510億円
うちSoCテスト 316億円
メモリ・テスト 194億円
- ・ SoCテストは、アプリケーション・プロセッサやハイエンド・ロジックIC向けを中心に、前期並みの高水準な売上を維持しました。
- ・ メモリ・テストは、DRAMで高水準な売上が続いたほか、不揮発性メモリ向けの売上が伸び、前期からさらに売上が増加しました。

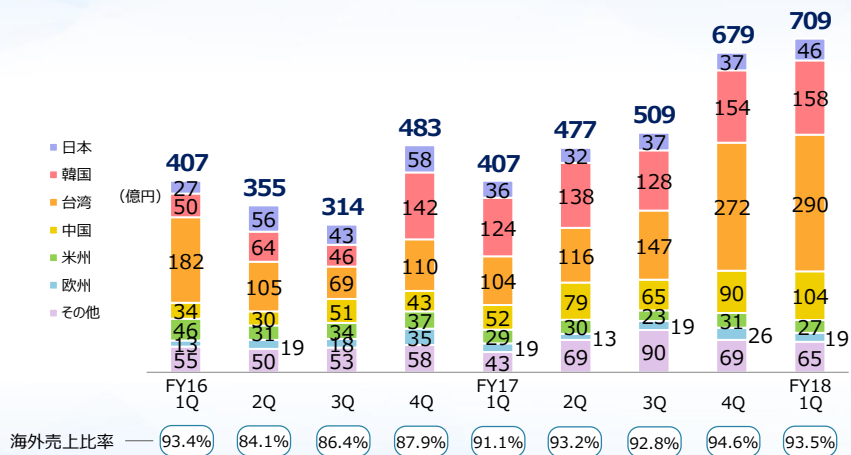
○ メカトロニクス関連事業

- ・ 前期比 11%増 111億円

○ サービス他

- ・ 前期比 5%増 89億円

四半期売上高 地域(出荷先)別

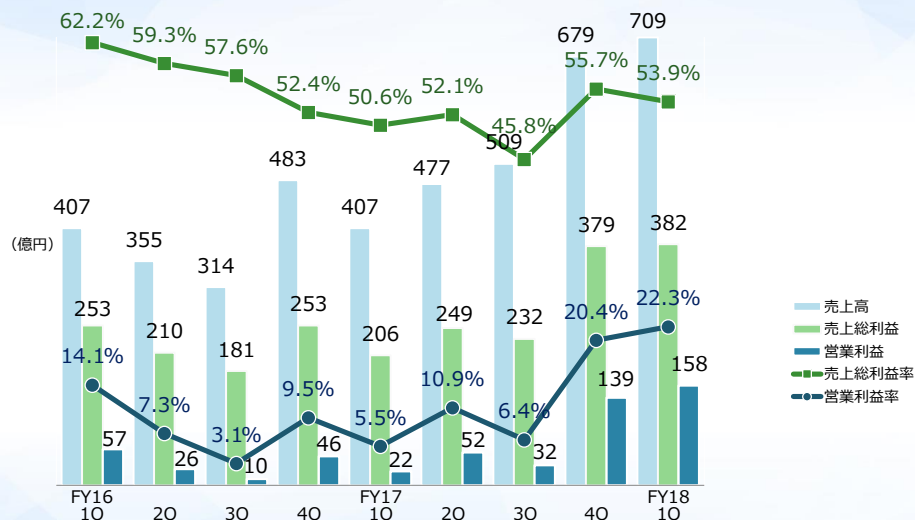


ADVANTEST.

○ 2018年度第1四半期の地域別売上高

- 半導体の量産工程が集積するアジアを中心に、高水準な売上を収めました。
- その結果、海外売上比率は 93.5%です。

売上高/売上総利益/営業利益



※FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

ADVANTEST.

2018/7/25

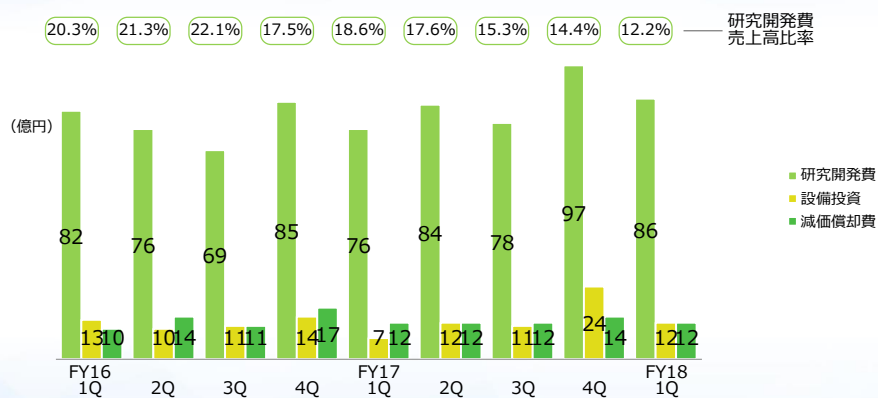
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2018年度第1四半期の営業利益

- 売上総利益率 前期比 1.8ポイント減 53.9%
 製品ミックスの変化がありましたが、依然高いレベルを維持することができました。
- 販管費等 前期比 16億円減 224億円
 期初のため、研究開発費等の販管費が若干低めに出たことによります。
- 営業利益 前期比 20億円増 158億円
- 営業利益率 前期比 1.9ポイント改善 22.3%
 販管費の減少で、売上総利益率の悪化を補いました。

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

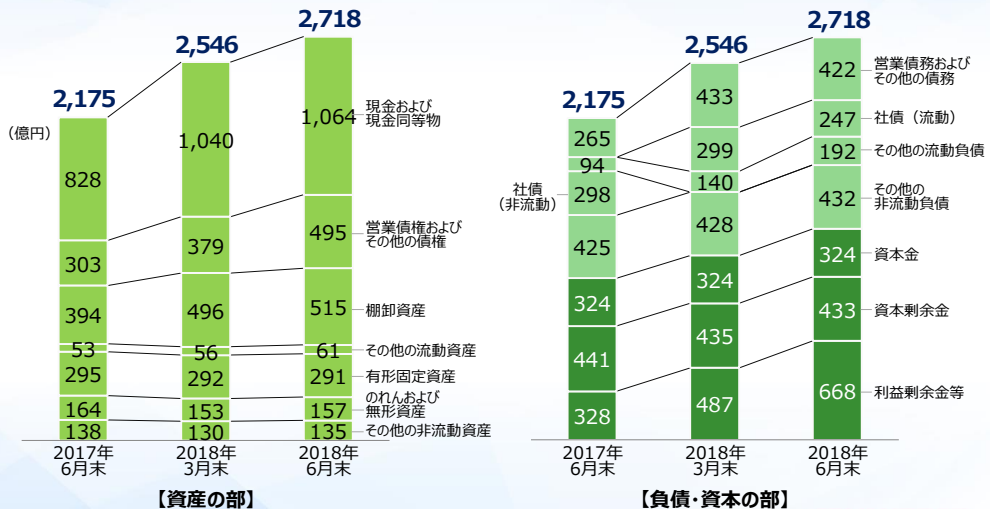
10

○ 2018年度第1四半期の研究開発費等

- 研究開発費 86億円 研究開発費売上高比率 12.2%
- 設備投資 12億円
- 減価償却費 12億円

連結財政状態

親会社の所有者に 帰属する持分	1,093	1,246	1,425
親会社所有者 帰属持分比率	50.3%	49.0%	52.4%



ADVANTEST.

○ 2018年6月末時点のバランス・シート

- ・ 総資産 2,718億円
- ・ 現金および現金同等物 前年度末比 25億円増 1,064億円
- ・ 社債（流動） 前年度末比 53億円減 247億円
2019年2月満期の転換社債の転換が進み、6月末時点の転換率は 17%
- ・ 親会社の所有者に帰属する持分 1,425億円
- ・ 親会社所有者帰属持分比率 前年度末比 3.4ポイント増 52.4%

アジェンダ

- 2018年度第1四半期決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

- 2018年度 事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

ADVANTEST.

CY18年市場予想

	CY17	CY18推定	変化率
SoCテスト市場	約\$2,200M	約\$2,200～ \$2,300M	前年比 0%～5%増
メモリ・テスト市場	約\$750M	約\$900M	前年比 約20%増

- ✓ 3ヶ月前の市場見通しを据え置き。これまでの見通しに沿ったテスト投資進展を見込む
- ✓ 暦年下期のSoCテスト市場は、スマートフォン関連、ディスプレイ関連が需要の中心
- ✓ メモリ・テストの需要拡大見通しにも変更なし

ADVANTEST.

○ CY2018年の市場予想

- まず事業の前提となるテスト市場の見通しですが、3ヶ月前の数字を据え置きます。
- 暦年の半分が終わりましたが、半導体需要は底堅く推移しており、また顧客の投資にも、大きな予定変更はなさそうな模様です。
- 報道等では半導体設備投資の変調懸念が出ていますが、テスト投資については、年内は当初見込んだ通りに実施されるのではないかと考えています。
- 暦年上期のSoCテスト市場は、AIサーバーなどに使われるハイエンド・ロジックIC向けや、スマートフォンのプロセッサ向けのテスト需要が活況でした。
- SoCテスト市場は例年、暦年後半はやや需要が下がる傾向にあります。今年もそのトレンドを踏襲すると思いますが、スマートフォン関連、産機・車載関連、ディスプレイ関連でテスト投資が継続されると見込んでいます。
- メモリメーカー各社の投資ボリューム・投資スケジュールの見通しも、3ヶ月前とそれほど変わっていません。サーバーに使われるプレミアムDRAMや不揮発性メモリの需要は底堅く、それに沿ってテスト投資も底堅く行なわれる見通しです。
- 2019年のテスト市場規模はまだ予測できていませんが、5Gスマートフォン市場の立ち上がり期待しています。
- 5Gスマートフォンでは、通信処理を司るベースバンド・プロセッサやRF部品の機能強化がなされます。ただ影響はそれにとどまりません。
- スマートフォン内部での大量・高速なデータ処理やデータ生成を行なうために、5Gスマートフォンでは、搭載されるすべての半導体で、高速化・低遅延化対応や、使用数の増加が必要となるでしょう。
- SoCだけでなく、メモリも、大容量化と高速化に拍車がかかります。
- 2019年から20年にかけて、テスト市場に大きなうねりが起きると期待しています。

FY18業績予想

(億円)

	FY17実績	FY18予想	前年度比	
			増加額	増加率
受注高	2,478	2,200	▲278	▲11.2%
売上高	2,072	2,300	228	11.0%
半導体・部品テストシステム事業	1,409	1,600	191	13.5%
メカトロニクス関連事業	359	380	21	5.9%
サービス他	305	320	15	5.0%
営業利益	245	345	100	40.9%
営業利益率	11.8%	15.0%	3.2pts	
税引前利益	243	348	105	43.2%
当期利益	181	278	97	53.6%
当期利益率	8.7%	12.1%	3.4pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整		▲30		
受注残	828	698	▲130	▲15.7%
為替レート	1米ドル	111円	105円	6円 円高
	1ユーロ	129円	135円	6円 円安

※合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

ADVANTEST.

2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

14

○ 2018年度の業績予想

- 4月に公表した中長期経営方針では、「半導体市場が全体的に拡大する中でも、より高性能で、より高信頼性が必要な半導体需要が伸びていくことが、当社にチャンス」としました。
- 足元の我々の受注・売上進捗は、この中長期経営方針での予見に沿ってテスト市場が動いていることを示すサインであると考えています。
- 通期業績予想に対する、第1四半期の進捗率は、

受注高	32.1%
売上高	30.8%
営業利益	45.8%
当期利益	50.0%
- このままいけば、18年の市場シェアは、前年比かなり改善できるのではないかと思います。
- 一方で、米中間の貿易摩擦のような、世界景気全体を冷やしかねない懸念要素が生じており、その動向には今後も注視していく必要があります。
- ついては、現時点では、業績予想を据え置きます。
- 先々に不透明感があることは確かですが、事業環境は活況にあります。世界経済と半導体業界が今後大きく揺れ動くことがなければ、通期の業績予想達成は十分可能であると思います。
- 今後上方修正できるよう、一段の業績改善を目指して取り組んでいきます。

FY18重点施策

■ 事業拡大に向けて

<製品供給能力引き上げ>

- ✓ 足元のテスト需要に追従すべく、引き続き部品の安定確保に努力

<中長期の成長に向けた施策>

- ✓ 2018年6月に、半導体テストに関わる事業のグローバル統合を実施
- ✓ 新組織の下、AI、5G通信、ADAS等の有望テーマでの競争力を強化

■ 投資等 FY18見通し ※期初計画から変更なし

- ✓ 研究開発費 : 350億円 (FY17実績 : 335億円)
- ✓ 設備投資 : 70億円 (FY17実績 : 54億円)
- ✓ 減価償却費 : 55億円 (FY17実績 : 50億円)

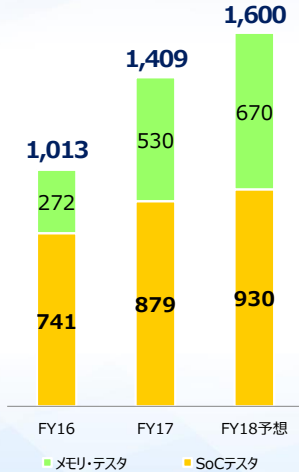
ADVANTEST.

○ 2018年度重点施策

- 当社の製品供給能力は1年前に比べかなり改善されているものの、納期面では依然お客様にご満足いただける状況になっていません。
- 十分な部材確保に向けて、引き続き努力していきます。
- 中長期の成長に向けた施策としては、6月の株主総会后、社内のテスト事業部門を完全に統合し、全世界で1つの組織にしています。
- 先々を考えると、メモリやSoC、AIやソフトといった様々なテクノロジーを組み合わせた、これまでの概念を超えた新デバイスが登場してくると思います。そうした流れに対し、全社を挙げて、テスト・テクノロジーを提供していきます。世界各地にある開発リソースを大胆に動かすことによって、新たなソリューションを提供できる体制を築き上げたということです。これが当社の今後10年の成長基盤となる、と考えています。
- 投資予定は、期初計画から変更ありません。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



■ 半導体・部品テストシステム

<SoCテスト>

- ✓ 端末高性能化を背景に、スマートフォン関連需要は今後も順調
- ✓ 車載半導体、ディスプレイ関連も需要好調が持続

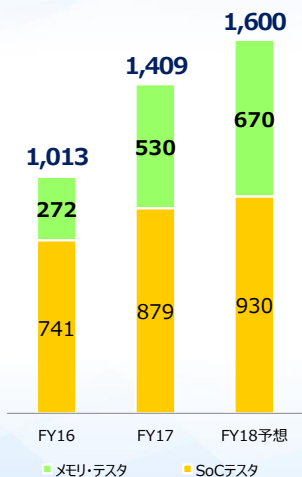
ADVANTEST.

○ SoCテスト事業の今期見通し

- 18年は、スマートフォンやAIサーバーに使われる半導体の高性能化や微細化が進展し、テストタイムの長時間化やテストの一層の複雑化が進んでいます。これが、SoCテストの需要を伸ばしています。
- スマートフォンの台数成長は鈍化していますが、ハイエンドからローエンドまで、どのセグメントも一貫して、端末性能の向上が進んでいます。それに伴って、搭載される半導体の性能進化や使用数増加の流れは続いています。
- 当社の強みは、繰り返しになりますが、半導体市場に関わるあらゆる層にお客様を持っていることです。スマートフォンに関しても、どの製品が伸びても、テスト需要を取り込める態勢を整えています。
- このことが、前年度の第4四半期以降の当社として記録的なSoCテストの受注につながりましたし、今後も生きていきます。
- 車載半導体関連、ディスプレイ関連も、環境良好です。
- 特にディスプレイ関連では、パネルの高精細化に加え、ディスプレイ・ドライバICのタッチセンサ混載が進むことでテストが一段複雑となることから、非常に高い需要の波が来ています。

FY18見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム
売上高推移（億円）



■ 半導体・部品テストシステム

<メモリ・テスト>

- ✓ 生産能力改善・デバイス高速化対応に向け、顧客のDRAM後工程テストの増強投資が継続
- ✓ NANDフラッシュの層数向上、信頼性保証ニーズ拡大に沿ったテスト増強も進展

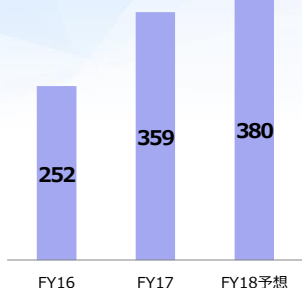
ADVANTEST.

○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- 当社のメモリ・テストの売上見通しは変更ありません。
- DRAMでは、サーバー用DRAMへの強い需要を背景に、DRAM後工程テストの投資が安定的に続く見通しです。
- 64層や72層の3D NAND量産に向けたテスト投資、NANDの信頼性を保証するためのバーインテストへの投資も、底堅く続く見込みです。
- メモリ・テストの投資調整があったとしても、それは短期的な調整にとどまり、中長期では成長していけると考えています。

FY18見通し（事業別）

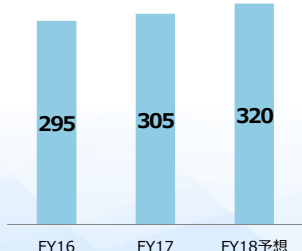
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



■ メカトロニクス関連

✓ メモリ向けのデバイス・インタフェース、テスト・ハンドラの需要が伸長

サービス他 売上高推移（億円）



■ サービス他

✓ SSDテストの拡大がセグメント増収に貢献

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- メカトロニクス関連事業は、メモリ・テストと事業関連性の高いメモリ・ハンドラ、デバイス・インタフェースの需要が伸びていく見込みです。
- サービス他事業は、中古装置の払底や、資金に余裕がある顧客が足元多いことから、リース／中古販売ビジネスが落ち込みますが、SSDテストの伸びでこれを補っていきける見通しです。

サマリー

- ✓ 2018年もテスト市場の活況を見込む中、一段の業績伸長を目指す
- ✓ 足元のテスト需要に追随すべく、引き続き部品の安定確保に努力
- ✓ 半導体テストに関わる事業のグローバル統合を実施。新組織の下、AI、5G通信、ADAS等の有望テーマでの競争力を強化
- ✓ 米中貿易摩擦がもたらしうる世界経済停滞リスクは注意深く見守る

ADVANTEST.

2018/7/25

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

19

○ サマリー

- 以上、2018年のテスト市場見通しと今後の事業見通しについて、お話ししました。
- テクノロジーは停滞しません。5G以外にも、半導体テスト市場を拡大させるイベントは今後目白押しです。半導体を使うアプリケーションも拡大の一途です。
- テスタ市場が仮に今後停滞局面を迎えたとしても、その調整は長期化することなく、半導体の複雑化・高度化や、半導体サプライチェーンの進化と共に、当社は成長していけると確信しています。
- この第1四半期は久々に良い決算となりましたが、そうした成長機会を前に、短期・中期・長期の観点で、必要な手を今後も打っていきます。
- ただし、保護主義の台頭や、米中間などの貿易摩擦には警戒も必要と考えており、急激な市場変動にも留意してまいります。

ご注意

◆会計基準について

本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。

これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

◆本資料の利用について

本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

ADVANTEST.